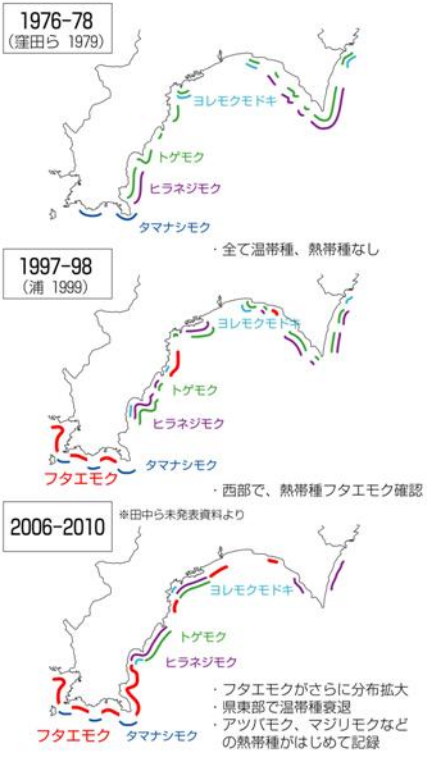
ホンダワラ類の藻場における熱帯種の分布拡大

高知県沿岸で最も多く見られる藻場はホンダワラ類の藻場（ガラモ場）です。近年、海の温暖化に伴いガラモ場を構成するホンダワラが温帯種から熱帯種へと大きく変化しています。

■ホンダワラ類の分布の変遷

現在、県内では19種のホンダワラ類の生育が確認されていますが、県西南部を中心に熱帯種が増加し、特にフタエモクが分布範囲を大きく広げています。これに対しトゲモク、ヒラネジモクなどの温帯種は分布範囲を年々縮小しており、衰退傾向にあります。



▲ 近年、分布を広げる熱帯種フタエモクの藻場

■ホンダワラ類の生育と海水温の関係

ホンダワラ類の藻体の生育に適した水温（生育適温）は種類によって異なります。トゲモク・イソモクなどの低温型といわれるホンダワラ類は15～20 ℃が生育適温といわれており、あまり水温が高くなると生育が阻害されます。一方、近年分布を広げている熱帯種は低温型よりも生育適温が高いと考えられ、また、成熟期の水温上昇は熱帯種のホンダワラ類の繁殖に有利に働きます。

従って、今後、海の温暖化がさらに進むと、熱帯種のホンダワラの進出と分布拡大、従来分布していた温帯種のホンダワラ類の衰退はますます顕著になり、高知県のガラモ場の姿は大きく変わっていくことが予想されます。